



脳梗塞・心筋梗塞発症リスク検査報告書

～ 将来の発症リスクを予測する「LOX-index[®]」～

受診医療機関名 NKメディコクリニック

受診日 2018/10/1

氏名 demo 様

カルテID 000002

性別 男性 年齢 45歳

★受診日 2018/10/1

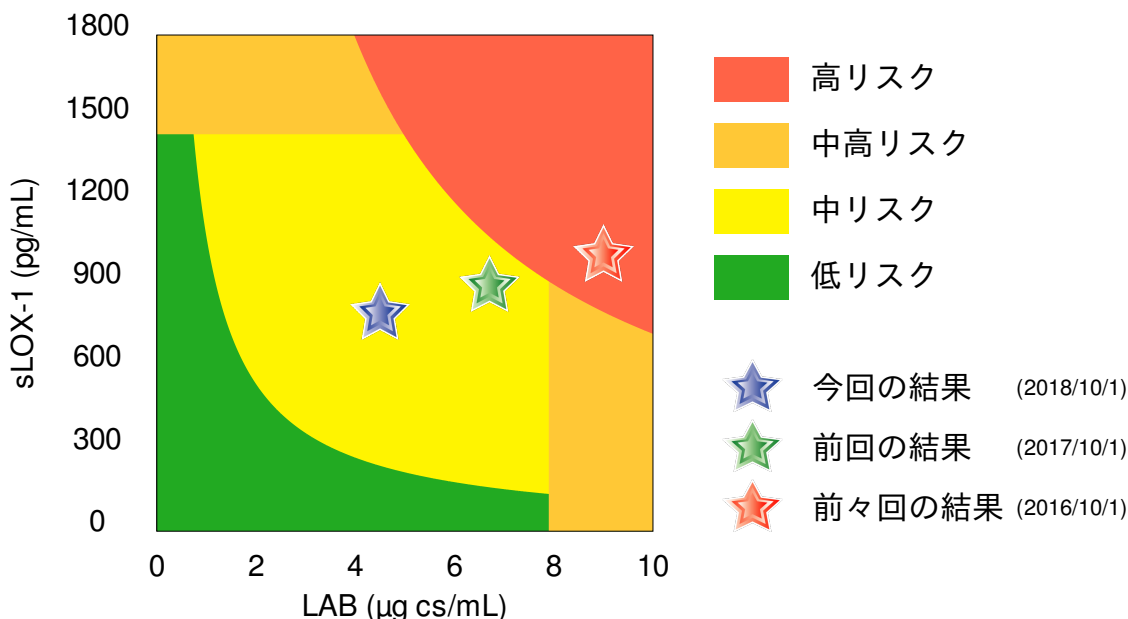
★氏名 demo 様

★カルテID 000002

★性別 男性

★年齢 45

総合評価グラフ

脳梗塞・心筋梗塞発症リスクは **中** ですLOX-index
とは？

動脈硬化の初期段階は、超悪玉コレステロール **LAB** (酸化変性LDL)と超悪玉コレステロールの担い手である **LOX-1** が結合することにより起こると考えられています。そのため **LOX-index[®]** は、LABとLOX-1を測定・解析することで、動脈硬化の初期段階を捉えることができます。また日本国内で行われた追跡研究の結果、**LOX-index[®]** が高いと将来の脳梗塞発症率は約3倍、心筋梗塞発症率は約2倍となることがわかっています。**LOX-index[®]** は脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを評価できる、唯一の検査です。

総合評価コメント

超悪玉コレステロールLAB、超悪玉コレステロールの担い手LOX-1がともに少し高めの結果で、血管障害リスク（血管が傷む危険性）が進行しやすい方向に傾いていると考えられます。

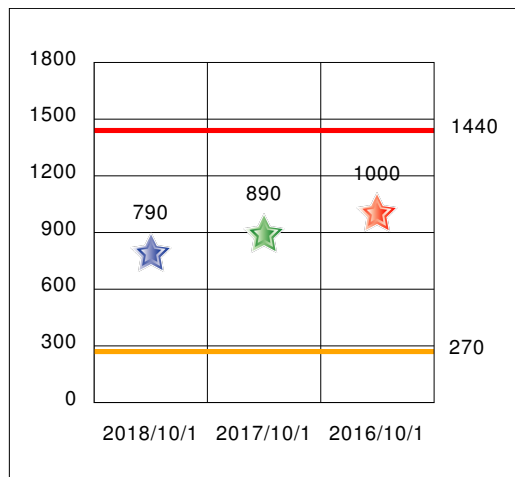
高血圧、高血糖、肥満、喫煙など他の動脈硬化リスクを持っている人は、治療や生活習慣の改善によってリスクを抑える必要があります。

LOX-1は炎症で上昇しますので、体内に炎症の兆候がある可能性があります。また、LABは体内で活性酸素が発生することで、悪玉コレステロール（LDLコレステロール）がサビつき生成されます。これらは食生活、運動習慣によって改善できますので、生活習慣を見直しましょう。

状態把握のためにも、一年後の再受診をおすすめします。

個別時系列データ

sLOX-1



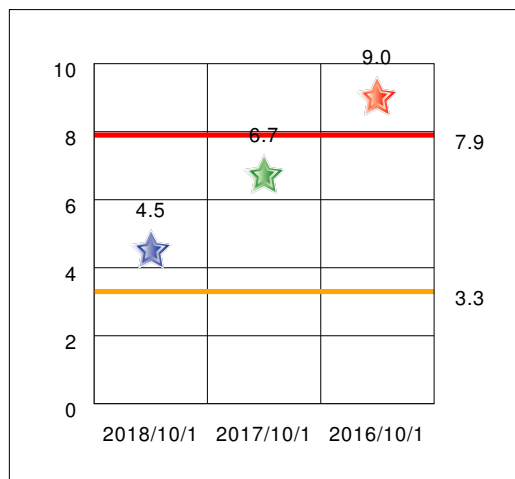
解説

超悪玉コレステロールの担い手LOX-1は、血液中から異物を取り除く働きをしています。血管に障害が起こるとLOX-1の生成が促進されるため、LOX-1は血管炎症の指標として利用されています。

今回の結果は、前回と同様にLOX-1の値が少し高い状態です。LOX-1は血中から異物を取り除く働きをしているため、酸化LDLなどに代表される動脈硬化の原因物質が多く、血管の炎症が起っていると考えられます。

この状態を改善するには、ストレスを避けることが必要です。メンタルストレスのほか、酸化ストレスにも注意して下さい。食を中心とした生活習慣の改善をお勧めします。

LAB



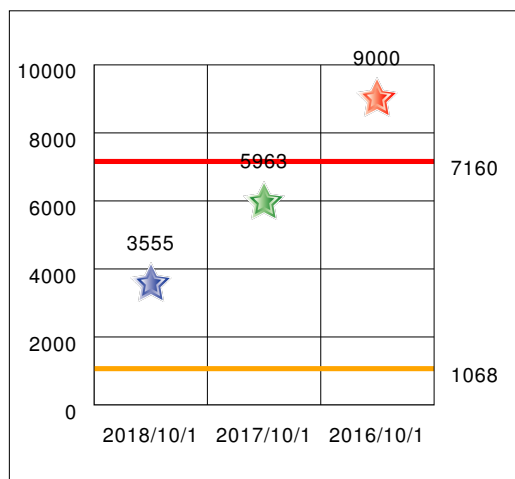
解説

超悪玉コレステロールLABは、悪玉コレステロールであるLDLコレステロールが酸化し、サビ付いた状態を示します。LDLコレステロールの一部は活性酸素等の影響によりサビつきます。このサビ付いたLDLコレステロールは動脈硬化を引き起こす原因となります。

今回の結果は、前回より改善が見られますが、LABの値がまだ少し高い状態です。

更なる改善を目指すために、生活習慣を見直してみましよう。また今後、加齢などによりリスクが上がる可能性が高いため、生活習慣の改善などでLABを下げるように心がけて下さい。

LOX-index[®]



解説

「LOX-index[®]」は、脳梗塞・心筋梗塞発症リスクを評価する最新の指標です。この結果は、将来の脳梗塞・心筋梗塞発症率を大きく左右します。

今回の検査結果では、前回より少し改善しリスクは中程度と評価されました。更なる改善を目指しましょう。

今後、加齢などによりリスクが上がる可能性がかなり高いため、生活習慣の改善などでLOX-1とLABを下げる必要があります。

よりよい生活習慣とストレス解消を心がけて、リスクの軽減に努めましょう。

LOX-index[®]の総合評価について

高リスクの場合

すでに何らかの動脈硬化性疾患が発生している可能性があり、将来に心筋梗塞／脳梗塞を発症する危険性があります。

医療機関に相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。

中高リスクの場合

高脂質血症、高血圧といった基礎疾患や動脈硬化性疾患の危険性があります。

医療機関に相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。

中リスクの場合

差し迫って危険性はありませんが、油断は禁物です。高脂質血症、高血圧といった基礎疾患や動脈硬化性疾患になる可能性があります。

人間ドック・健康診断を同時に受診された方はその結果も踏まえてドクターに相談してください。本検査単独で受診された方は、ドクターと相談の上で、2次検査を受けるか、生活習慣の改善に努めてください。

低リスクの場合

引き続き定期的にLOX-index[®]を受診し、動脈硬化に伴う疾病リスクを確認してください。

検査でリスクが高かった場合・・・

生活習慣の見直しと改善に取り組み、予防への対策に取り組むことをお勧めします。また、動脈硬化が進行している可能性が高いため、必要に応じて二次検査を受診しましょう。二次検査の結果を受けて、生活習慣の改善などの予防のアプローチを行うか、治療を行うか、さらに精密検査を行うかについては医師の診断を受けることをお勧めします。(以下参照)

代表的な二次検査

頸動脈エコー検査

超音波の発信装置を首にあて、動脈硬化の有無や程度を調べる検査です。プラークの有無や血管が狭くなっているかを調べます。

CAVI検査、ABI/PWV検査

動脈の硬さ、詰まりを検査します。手足の血圧比や脈波を検査し、動脈硬化の程度を調べる検査です。血管年齢検査などとも呼ばれます。

代表的な精密検査

CT検査(コンピュータ断層撮影)

X線とコンピューターを使用し、心臓の状態を調べる検査です。

MRI/MRA検査(磁気共鳴装置)

電磁波を使用し、脳の断層像、血管の状態を映像化する検査です。

心臓カテーテル検査

体内にカテーテルを通し、造影剤を入れ、X線撮影します。血管の状態を調べる検査です。

LOX-index[®]についてより詳しい情報はこちらから

◆スマートフォン・タブレットはQRコードでアクセス

◆PCの方は以下URLにアクセス

<https://nkmedico.com/lox-index-user/>



※ 当検査は、研究検査項目になるため診断目的で使用いただくことはできません。

検査受託：
NKメディコ株式会社

測定・解析：
NKメディコ株式会社
検査責任者 坂爪 洋